

玉手山学園広報

No.59 新年号
2009年1月10日発行
総合学園広報誌

「ありがとう」から生まれるもの

気づき、豊かな感受性から



理事長

江端 源 治

謹賀新年、 どんな一年にするか

学生、生徒、園児、保護者、そして学園教職員の皆さん、「新年あけましておめでとうございます。」素晴らしい一年になりますようご祈念申し上げます。

さて昨年は米国のサブプライムショックに始まり金融市場は大荒れ、近くは橋下知事の「大阪維新プログラム」により大阪私学は少なからぬ影響を受けま

め、新たな一年をしつかりと歩んでまいりましょう。

「ありがとう」論文

「気づき、豊かな感受性から」

昨秋、「ありがとう」をテーマに第2回高校生論文コンクール(大学主催)が開催されました。応募者は各自各様の体験をもとに、何の(どうして)「ありがとう」なのかに気づき感動したとき、新たな喜び・勇気・情熱・優しさ・思いやりが生まれ、「世界が変わり、自分が変わった」とを述べていました。「ありがとう」の感謝、そして行動から、また新たな「ありがとう」が生まれ受け継がれていきます。多くの作品に感動を覚えました。

さて今年はいったいどんな年になるのでしょうか? “どうであれ”、我々は「こんな一年にしてやろう」と目標を設定

「授業中に居眠る」と

いごと学生の自己責任 もつたない

今の日本が抱えている教育問題の一つに「学生の多様化、学力低下」があります。

本学園でも残念ながら、たとえば「授業中に居眠る学生・生徒」がいます。学ばざれば当然、知識・技術は身につかず学力は伸びません。せっかく「学べる環境」にいるのに(世の中には勉強したくてもできない若者が大勢いるというのに)、なんと勿体ないことでしょうか。

その「ありがとうさ・幸せ」に気付かず、自らが学ぶ権利を放棄してしまっているのですから、自分が伸びなくても、それは「自己責任」と言わざるを得ず、「自己責任」と言わざるを得ず、「自己責任」、学ばず努力もしない「自分が悪い」のです。

学生・生徒をマラソン選手にとえるなら、保護者や教職員

は併走するまでで、走り切るのは選手(自分)自身の力なのです。

「教育力向上に向けた

取り組み聞き入る!

われわれ教職員は、学生・生徒・園児たちを伸ばせるだけ伸ばしたいと願っています。それが我々の使命であり、喜びでもあるのです。

その使命を果たすために、我々は「教育力の向上」という、永遠のテーマに真正面から取り組み、具体的な活動を精力的に実施しています。学内研修会、授業アンケート、授業公開、自己評価シート、公開保育そして「人事評価制度」など意欲的に取り組んでいます。

”眠くならない授業をする!”(学生・生徒を魅了する) “昨秋、大学学友会主催の水谷修氏(夜回り先生)の講演では、約700名の学生は誰一人として眠っていませんでした。”

「学園の基本理念」(建学)の精神「感恩」学園の使命 学園運営基本方針」学園の皆で共有、実践

私学にとって建学の精神は、何のために学園を創設したのか、どんな人材を育成するのかという学園の存在意義、まさに「魂」であります。学園固有、世界唯一のこの建学の精神は学園教職員、在校生、そして卒業生にとって誇りであり、わが学園の教育の根本として、たゆみなき現代化、構造化が図られ脈々と受け継がれています。

昨年11月21日の学園理事会において「学園基本理念」・「学園運営基本方針」を協議、あらためて確認をいたしました。これらは当学園のすべての営為の基盤であり、学園教職員業務の出発点、そして指針・目標であります。ぜひ学生・生徒・園児、保護者の皆さまとも共有したい概念です。

学園の基本理念

— 建学の精神「感恩」 —

人間のおよび得ない存在への畏敬の念と、生かされてある不

思議を原点に、人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し今日の自分がある。この厳粛にして偉大なばかりに目覚め、湧き起こる深い感動と感謝の念から発する情熱をもって行動するとき、われわれは人々に幸せをもたらすことができる。

— 学園の使命 —

建学の精神「感恩」を体し、人間の絆に目覚め、感動と感謝の念から発する情熱をもって人に幸せをもたらし、社会に貢献し得る人材を育成し、幸福・平和で豊かな社会の構築に寄与する。学園の各校園はこの崇高な使命を全うするため、それぞれの教育目的・理念のもと具体的な教育目標を掲げ、その達成に総力を結集し、「教育」に邁進する。

学園職員の責務

— 教育人として —

- 人類の未来を拓く「知」の継承・伝達と創造・発展に努め、次代を担う有為な後継者を育成する
- 「教育力の向上」に努め、「良質の教育サービス提供」に徹

する

- 学生、生徒、園児の持てる力をひきだし、伸ばし育てる
- 学園に学ぶものに「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感をもたらす
- 教育人としての自覚のもと、喜びと誇りを持ってその責務・使命の遂行に情熱を燃やす

— 組織人、私学人として —

- 学園および各校園の使命、経営方針、教育目的・目標の理解・堅持に努め、その達成に貢献する
- 組織人としての自覚、連携・協調を重んじ自己の責務・役割を果たす
- 学園教職員、私学人であることに喜びと誇りを持ち、自己の能力および人格の向上に努める

学園運営基本方針

常に魅力ある学園、社会に貢献し必要とされる学園を目指す。確かな「教育力」と「情熱」が誇り、

- 1、**学園の使命、教育目的の確かな共有・定着・実践**
- 建学の精神「感恩」の定着推

進

各校園の教育目的・目標の再確認(点検)、共有、実践

- 2、**全職員の職責、「学園教職員魂」の高揚・実践**
- 3、**「教育力」の向上**

教職員の資質・能力、人格の向上、意欲・情熱の高揚

- 4、**学生・生徒・園児の満足度向上**↳満足度関西一
- 5、**こころ豊かな学風の確立、学校愛・母校愛の醸成**

愛情、責任をもって関わり鍛え、伸ばせるだけ伸ばす

- 6、**「学び」を支える学園環境、施設・設備等の充実**
- 7、**継承・発展と改革を支える強く健全な財政基盤の確立・堅持**

「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感につながる

豊かな人間性・人格の基本笑顔、あいさつ、心優しいマナーの推進

笑顔、あいさつ、心優しいマナーがあふれる学園に

このことについては、ここ数

回続けて取り上げていますが、それほど人として重要なことであり、豊かな人間性・人格の発露そのもの、そして基本であります。知識や技術の修得よりも何より大切なことであります。「笑顔、あいさつ、心優しいマナー」から生まれてくるものは素晴らしく、魔法の力があるのです。しかめっ面より笑顔、無言・下向きより挨拶・向き合い、無表情・冷淡より豊かな感性・温かみです。今年も一層さわやかな学園(自分)を目指して元気にあいさつをいたしましょう。「あの学園に行ったら元気が出る。あの学園の学生・生徒・園児、そして教職員たちは実に気持ちがいい！」と言われる学園を、みんなで「築き上げましょ



学園雪景色

学園ベストボックス

第2回高校生論文コンクール開催

大学 入試広報部 福田 尚美

ザ・ベストランチPJ始動!

食堂改善委員会



↑学生入賞作品 (オリジナル)

↑イズミヤ販売

大学食堂 魚国試作品→

3種類のごはん(オムライス・えびフライ・カレーピラフ)とハートの卵焼きが食欲をそそります。また野菜もたっぷり、472kcalとヘルシーです。

昨年末(11月17日〜12月14日)にスーパーイズミヤで「ハートフルランチボックス」というネーミングのお弁当が販売されました。イズミヤ他主催の「愛情バランスお弁当コンテスト」に応募した本学福祉栄養学科の学生チーム作品のうち3作品が特別賞を受賞し、その内の1作品がイズミヤで商品化・販売されたものです。

福祉栄養学科2回生の村上さん、磯崎さん、矢出さんの共作で応募時のネーミングは「カラフル☆ベジタブルOハートフルランチBOX」でしたが、販売時は、ネーミングもシンプルになり、且つ見た目もコンパクト化されて398円で販売されました。

「愛情バランスお弁当コンテスト」とは、「野菜バリバリ朝食モリモリ」を合言葉に健康づくりのための食育活動の一環で行われています。

本学園では3つの食堂が営業していますが、利用者のアンケートをとりますと

- ・ポリウムが多すぎる。ハイフサイズ、レディースサイズがほしい。
- ・脂っこいものが多く、野菜が少なくヘルシー度が少ない。
- ・汁物には塩分が多すぎる。
- ・メニューが少ない。小鉢メニューがほしい。

などのご意見がありました。反面、今の味付け・量も適度で満足しているという学生もいます。

「おふくろの味」は、育った地域、家庭でそれぞれですが、ヘルシーというキーワードを望む学生さん(特に女子学生)には、

昨年に引き続き第2回「高校生論文コンクール」を開催いたしました。全国から寄せられた773通の応募作品の最終審査を2008年9月18日、関西福祉科学大学にて実施しました。その結果17作品が選ばれ、10月5日のオープンキャンパスにて最優秀賞の表彰式を行いました。今回のテーマは「ありがとう」でした。

高齢化社会の現代、若者たちの関心はどこにあるのか。福祉とひとことでもいっても幅広く、漠然としか考えていないのではと思っていました。10代の未来を担う若者たちの福祉に対する思いは773通りの感動を与えてくれました。

高校生という多感であり、また人生の進路を考え始めるこの時期に、「ありがとう」という身近な言葉を通して福祉に関心をもつ学生が一人でも多く増えるということは大変嬉しいことです。まずは身近なことに目を向けて、「ありがとう」というテーマを考えてもらい、そこから福祉に対する意識高揚を持ってもらえたらと考えています。

また審査を通じて、改めて福祉専門教育についての重要性、これからの課題などを考える機会をいただきました。

満足度はよくありません。そういった意見を背景に、表題のプロジェクトが発案され、学生・教職員・食堂業者の3者による食堂改善委員会(仮称)が昨年10月1日に結成されました。

初回の会議で現状運営状況・調理状況を確認し、2回目には関西近辺の他大学の食堂運営事例を勉強しました。

最終的には学生委員発案の「お昼にぜひ食べたい」「ヘルシーで」「野菜たっぷり」の定食メニューを食堂で販売したいとあります。

「愛情たっぷり、野菜もたっぷり」を合言葉に食堂メニューを改革し、学生、生徒、教職員に喜んでほしい食堂売上げ増加にも貢献するように頑張ります。乞う、ご期待です!

第3回

「ヘルスの健康と経営戦略」フォーラム開催

EAP研究所 副所長 長 見 まき子

EAP研究所では、メンタルヘルス対策がメンタルヘルス不調者を対象とした医療・福利厚生としての活動から、健康度の高い労働者による生産性の高い職場づくりを目的とした経営の一部としての活動へと視点を転換することの必要性を訴え、その転換を推進するために、「こころの健康と経営戦略」フォーラムを実施しています。

今年度は初の試みとして東京に進出し、東京商工会議所国際会議場にて、9月12日にフォーラムを開催しました。

東京近郊のみならず、関西、九州など全国から延べ171名が参加しました。

今回はメインテーマを「経営の視点からメンタルヘルス対策を考える」とし、専修大学の廣石忠司教授による基調講演のあと、シンポジウムでは産業医科大学の堤明純教授、日本オラクル(株)産業医の菅裕彦氏、(株)



EAP東京フォーラム

産業医大ソリュシ
ョンズ代表取締役社
長の亀田高志氏、(株)
リコー 取締役 専務
執行役員 CHO、人
事本部長中村 高氏
が、各々の立場から
テーマに沿ってプレ
ゼンされました。
参加者との熱のこ
もった活発な議論が
なされ、盛況のうち
に閉会しました。

藤蔭会のお役目
をさせて頂いて5年。
卒業して50年。例
会に行く度に、出
欠のハガキがほと
んど届いていない。
それならと、卒業
50年の集いの案内を電話で呼びかけることにしました。

卒業 50年の集い

(平成20年9月27日開催)

藤蔭会 広瀬 美鈴

「モシモシ私、お久しぶりねえ元気？50周年の集いに出席してね、学校もす
ばらしく変貌しているの。みんな誘い合って必ず来てね、待ってるよ」と。
電話の向こうには、セラー服にオカッパ頭の同級生の顔が浮かびました。

当日は、天候に恵まれ皆さんおしゃれをしての登場でした。同じクラスだ
った方は、九州小倉から、一組の方は、横浜から遠路出席して下さいました。
他は、近畿周辺の方々と、総勢22名が集まりました。また学校からも江端理
事長始め多くの先生方に出席していただき、盛大な会となりました。会場は、
50年前にタイムスリップして、口早に賑やかなおしゃべりが絶えませんでした。一人ずつのスピーチでは、国分駅
からの通学路も様変わりしていて、学校があまりにもすばらしく、どこから入ったらいのか全然解らなかつた
と、異口同音の感想が述べられました。昔と変わらないのは、桜並木と、川の流れです。

母校がこんなに立派になり、大学も開設され、卒業生として誇りに思い、とても感謝致して居ります。
時間の過ぎるのは早く、みんな名残を惜しむ思いを胸に、次の再会を誓い合い母校を後にしました。

日本高等教育評価機構による 認証評価を受けて

認証評価を受けて

リエゾン・オフィサー 小林 芳郎

昨年11月に日本高等教育評価機構による実地調査が円滑に終了し、一昨年度
より進めてきました本学の自己評価にかかわる作業にも一先ず区切りをつける
ことができました。改めて全学の皆様に感謝申し上げます。

「自己評価報告書」を作成し、認証評価機関による「認証評価」を受ける目
的の本質は、その取り組みの過程を通して、本学自体が本学を主体的・客観的
に評価し、今後の向上・発展に努力を続ける意志を一層高めていくことにあり
ます。

全教職員の盡力を得て、全学科挙げて仕事が遂行されましたことで、この



評価機構委員との面談



卒業50年の集い 写真左から右へ：藤蔭会副会長、藤蔭会会長、藤蔭会幹事長、藤蔭会副幹事長

自己評価の本来の意義は十分に達成されているものと思われま

す。
実地調査当日には、機構評価員との間で自己報告書の内容等につき詳細な面談が実施されました。その結果は本年3月に公表される予定ですが、今回の全学的な取り組みの実績も認証評価に必ず反映されるものと確信致しております。



評価機構委員へ総合体育館の説明

第6回

柏原市わくわくフェスタ

ちびっこダンス大会に出場しました

幼稚園課外保育キッズファンクダンス教室主宰

三谷 宗子



リエールホールで発表会

平成20年11月16日(日)、リエールホール大ホールの大きな舞台上で、総勢22名のかわいいダンサー達が踊りを披露しました。講師手作りの衣装で、華やかに登場した瞬間、観客席の「かわいいう〜」という声があちこちから聞こえ、お子様たちは嬉しそうにはにかんでいました。しかし、曲が流れると一転、正直泣き出す子がいると想定して出場していたのですが、何と泣くどころかみんな笑顔で大きな

舞台に臆することなく、むしろ楽しんで踊っていました。照明がたった瞬間のお顔はきりっとし、立派なダンサーそのものでした。
まずは、全員でヤッターマンでかわいらしく踊り、次に年長さんだけでルパンザファイヤーをかつこよく踊りました。
他の出場者は全員が小学生以上で、市のイベントとしてはかなりハイレベルなダンスチームの中に私たちSUNVALLEY KIDS DANCEが組み込まれていたのですが、全く引けを取らないほどの出来栄でした。その姿に講師陣全員が感極まっています。また、保護者の方々もあたたかい配慮で、衣装の最終製作を手伝っていただいたり、いろんなアドバイスをいただいたりと、感謝してもしきれないほどのご協力をいただきました。
お子様たちの日頃の厳しい練習に耐えた努力、保護者の方々の熱心で暖かいご協力、講師のダンスは楽しいという信念、どれか一つでも欠けたら、成しえなかつた発表会でした。



柏原市より表彰される

園 長 川 人 公 一

市政施行五十周年を迎えた柏原市が十月五日、リエールホールに於いて千二百人以上の参列者を迎え、盛大に記念式典を挙行されました。

橋下大阪府知事、岡本柏原市長はじめ多くの来賓方の祝辞や挨拶が行われ、柏原市への熱い祝賀のメールを送られました。そして表彰式に移り、市民福祉向上と地域振興発展に尽力、柏原市伸展に多大の貢献をされたことにより、特別顕彰百七十四人、八十四団体が表彰されました。本園へも団体表彰の一員として表彰状並びに記念品が授与されました。

本園はこの柏原の地に於いて創立四十三年目を迎え、永年にわたり幼児教育の発展に邁進してきましたが、この度このように表彰された事は誠に喜ばしく、光榮な事と存じています。これも一重に理事長はじめ学園関係者のご指導、そして本園を創立以来築いてこられた諸先輩のご努力の賜物と深く感謝しております。

水谷 修氏(夜回り先生)講演会

学生支援センター 小林 真郎

去る10月24日学園2号館大講義室にて「水谷修氏(夜回り先生)講演会」自分病から、やさしさ配りへ〜夜回り先生の闘いと願い〜と銘打ち校友会主催の学内講演会が開催されました。当日は小雨が降る悪天候の中、約700名もの聴講者(本学園関係者及び大短学生)が参加し一部立ち見が出るほどの盛況振りとなりました。前評判通り水谷氏の講演はその貴重かつ豊富な経験に基づいた迫力ある内容で、涙あり、笑いありの話に聴講者全員が引き込まれあつたという間の90分となりました。講演後のアンケートでも「命を大切に」する「生き方、考え方が変わった」などの感銘を受けたとの声が多く寄せられました。また、講演会の前後には水谷氏の著書の販売会及びサイン会が実施され、大変な盛況の中、終了いたしました。

大阪府史跡「立教館」見学会開催

法人本部 施設部 田 堀 富 造



立教館で記念撮影

玄孫と書いて「やしやご」と読みます。曾孫の子のことで、本人から見れば5代目の子孫になります。

去る平成20年10月20日に、本学園にある府史跡「立教館」を創設された柘植葛城（1804年～1874年）の玄孫にあたる御子孫の方々をお招きして、立教館の見学会を開催しました。

発端は、4年後創立70周年を迎えるに当たり、本学園の教学の振興に資するため、立教館に關し再調査を行うことになり、元高校教諭の小林和彦先生に委嘱し、調査・研究をすすめていたところ、葛城の菩提寺である阿弥陀寺（柏原市国分本町）の住職様より御子孫（現在は福岡県福岡市他に在住）の存在を知り、お電話でお話しするうちに、「お墓参りはよく行くが、立教館を見たことがない」とのことです。

回の見学会の運びとなりました。

当日は、高校の藤陰会の至田様始め役員の皆様にご無理をお願いし、学園本館8階の籐陰庵にお招きし、理事長、学園長、本部長と共にお食事を開催し、わざわざ持参いただいた、葛城の掛け軸や当時の資料を拝観致しました。抹茶をご馳走になり、その後立教館の見学会となり、地元の史家榎谷氏と学園理事と葛城御子孫様との記念写真を撮影しました。見学会の後に、篠置名誉学長室でも学長所有の葛城掛け軸を拝観し、当時の状況をうかがいました。

今後、小林先生は収集した資料、情報をもとに原稿を纏められますが、調査が完了し原稿が冊子になりました折には、皆様には是非ご一読願いたいと思います。郷土の子弟の教育の為に、立教館を創設した葛城の熱い情熱と精神を本学園の教職員も受け継ぎ、学生・生徒・園児の教育に邁進してまいりたいと思います。



籐陰庵でお食事会

大私幼・東大阪支部公開保育を終えて

幼稚園 岡 本 秀 美

秋晴れの中、平成二十年十一月二十九日 大私幼・東大阪支部指定の公開保育を行いました。

「生き生きと輝く心と身体の追求」をテーマに、年長組（青組）は体育遊び、年中組（赤組）は楽器遊び、年少組（桃組）は絵画製作、満三歳（ひよこ組）はリトミック言葉遊びを中心とした保育を見て頂きました。

公開保育を迎えるまでには、子どもたちが生き生きと輝ける保育とは、遊びの中から、学べる保育とはと、何度も話し合いをしながら、設定保育を重ね、保育の研究と環境整備に取り組んでまいりました。

当日の子どもたちは、先生たちの緊張もよそに、いつも通り、元気一杯、保育に参加してくれ、その成長した姿に、頼もしさと嬉しきを感じました。

全体会では、各学年のこの一年の実践を発表し保育の取り組みや園児のがんばりを紹介できました。

参加46園、参加人数192名、年長組の保護者295名、総勢約500名の参加者に、実践を報告できる喜びよりも緊張感の方が正直上回る思いでした。

実践報告では、各学年主任も落ち着き、しっかりと発表できたことが何よりでした。

そして園を代表しての年長組のコースでは、微笑ましい一面、練習の成果を十分ご披露できたと感じるほど、多くの拍手やご声援を頂きました。

記念講演として、関西福祉科学大学の武田建先生により「子育てコーチング」についてのお話を聞かせて頂きました。

アメリカンフットボールのコーチ経験、海外留学での研究を通して培われた人を育てるノウハウについて、子育ての場面を取り上げ、具体例を挙げながらわかりやすい言葉でのお話しに、皆様が熱心に聞き入っておられたのが、印象的でした。

武田先生、本当にありがとうございました。



第2回

美化ボランティアを終えて

高等学校 生徒会 美化係

11月13日(木)に第2回美化ボランティアを実施しました。当日129名の生徒が参加し、河内国分駅前から教育大前駅までの原川沿いを放課後4時より約1時間美化活動を行いました。生徒は火バサミを1本ずつ手にし、タバコの吸殻や空き缶、ガラス等道路に捨てられていたものを拾い集めました。

参加した生徒の声を紹介します。

「美化ボランティアに参加してまず思ったことは、タバコの吸殻が多いことや紙パックやガムなどが多数落ちていてことです。このゴミを捨てる時に、良いか悪いかの判断をして欲しいです。みんなが一生涯懸命拾ったので学校周辺は綺麗になりましたが、道端にゴミを捨てることは残念なことだと思います。ゴミを捨てる人がなくなるのをお願いながら、次回の美化ボランティアにも参加したいと思いました。」(1年男子)

「初めて美化ボランティアに参加して自分たちが登校している道路を掃除しました。タバコの吸殻などを拾っていると、車に乗った男の人に「ありがとう。」と言われました。人にお礼を言われ、参加してよかったと思いました。また、参加したいです。」(1年女子)

生徒それぞれ清掃することの意味を充分に感じてくれた1時間だったと思います。

「今感じたこの気持ちをこれからも忘れずに持ちつづけ、そして『ゴミを捨てないことは当たり前』として、ゴミを捨てる人に対し注意出来る人になり、美化だけでなく様々なボランティア活動へも進んで参加できる人となってもらいたいと考えています。」



学園本館防火訓練実施

法人本部施設部 田堀富造

去る12月10日(水)に柏羽藤消防組合より、5名の消防士の方に来ていただき学園本館で防火訓練を行いました。参加者は各所属から総勢約40名でした。

当日はまず消防組合の方から火災予防の日頃の心構え、火災発生時の初動の対応などについて講演をしていただきました。引き続き訓練に移り、消防署への火災発生通報訓練、初期消火訓練、避難誘導訓練、非常持ち出し訓練、負傷者用担架配置訓練等をおこないました。最後に参加者全員が消火器で放水をおこない訓練を終了しました。

訓練終了後反省会をおこないましたが、一番多かった意見は今回は職員だけの訓練であったが、学園にはたくさんの方がおり、万が一の場合は学生の避難誘導が最優先である。

よって次回は学生も参加した訓練を是非実施してほしいというものでした。本部ではこうした意見をふまえ、今回の訓練を計画していきます。



消防組合の講演

管理栄養士

国家試験対策用自習室の

設置について

大学 教務部

平成20年度秋学期より、管理栄養士国家試験受験対策の一つとして、福祉栄養学科学生用に、学園2号館6階601号室を自

習室として開設しました。この自習室は、受験に向けての自主勉強や補講、グループでの勉強会、ゼミ単位での学習に取り組



放水訓練



むための専用室として利用でき
るよう改装しました。教室には、
自習に便利なように各教科の教
科書、辞書類、参考書や問題集
などを配置し、快適な学習空間
を提供することが可能となりま
した。

今後は授業の無い時間帯や放
課後を利用して一人でも多くの

学生が、くつろぎながら国家試
験についての情報交換も出来る
よう荷物棚なども設置される予
定です。

福祉栄養学科では今年2期生
を送り出しましたが、管理栄養
士国家試験の合格率は約60%で
あり、さらなる合格率アップを
目指して学科をあげて尽力して

「八尾健康・医療・福祉展に参加して」

健康科学科 大川 尚子

健康科学科では養護教諭の養
成をしています。1年生のほと
んどが養護教諭になりたいとい
う強い意志を持って入学してき
ます。その意欲をさらに高める
ために、本学の特色の1つでも
ある「基礎演習」の時間を使っ
て、八尾保健所と連携して、地
域で開催されている健康教育活
動に参加しました。

地域の方々の前で、「すきキ
ライなくしてまいにち元気！」
と「しつかり手あらいばいばい
キーン！」という内容で生活習
慣についての啓発劇を実施しま
した。基礎演習の時間だけでは
練習時間が足らず、授業の空き
時間等を利用してがんばったお
かげで、当日は会場からたくさ

んの拍手をいただくことができ
ました。前日までどうなること
かと内心ひやひやしていました
が、発表当日の活き活きした学
生たちの様子が本当に頼もしく
見えました。人前で話すことが
苦手な学生も多くいましたがこ
の経験が自信につながり、その
後、附属幼稚園の園児にも指導
させていた、だくことができま
した。

学校保健法が半世紀ぶりに改
正され、平成21年4月から、「学
校保健安全法」が施行されます。

この新法においても、養護教
諭を中心として関係教職員、地
域の医療機関等と連携した組織
的な保健指導の充実が求められ
ています。

います。

また、特別講義、補講、模試、
個人面談など、学科の総力を挙
げてバックアップしています。

全学年の学生の利用を呼びか
けていますが、特に3・4年生
の活用が期待されています。

これからも、子どもたちが学童
期のみならず生涯を通して、心
身の健康の保持増進を図り、栄
養、運動及び休養を柱とする調
和のとれた基本的生活習慣を確
立することができるよう、家庭
の理解、協力のもと、地域とも
連携を取りながら、あらゆる子
どもたちへの健康教育の実践が
できる養護教諭を養成していき
たいと考えています。



大川先生とゼミの皆さん